

ヨコハマ人・まち

第21号

まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 地域事業部 地域整備支援課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641
Email: tb-chiikishien@city.yokohama.jp

- 【ヨコハマ人・まち 目次】
- 地域の玄関口を「夢の舞う岡」に～戸塚区 舞岡バス停前の緑化整備が完成
 - 「コミュニティバスの実現をめざす区民の集い」報告
 - よこはまのまちづくり活動情報（募集案内）



地域の玄関口を 「夢の舞う岡」に

～戸塚区 舞岡バス停前の緑化整備が完成

地域の玄関口、舞岡バス停を「夢の舞う岡」へ

横浜市戸塚区舞岡。市営地下鉄の舞岡駅を地上に出ると、隣の戸塚駅周辺とは全く違った、緑豊かな風景を目にすることができます。舞岡川にそって北へ10分ほど歩き、舞岡小学校を越えると、舞岡バス停。この地域で暮らす人たちが通勤や通学などに使う玄関口でもあります。

1年前まで、舞岡バス停付近は、土が露出した傾斜地でした。雨が降ると表面の土砂が歩道に流れ、埋まっていた石などがむき出しになり落下する危険もありました。その傾斜地に、今では、花木が植えられ、整備された階段には小学生の絵タイルが散りばめられています。中学生が絵を描いたテラスも設置され、晴れた日には富士山が見渡せます。「夢の舞う岡」と名づけられたこの傾斜地は、平成18年度（2006年度）「ヨコハマ市民まち普請事業」の対象として整備され、平成18年11月23日、オープン式を迎えたのでした。

ボランティア活動が発意した バス停前緑化

「夢の舞う岡」の整備を最初に発案したのは、「舞岡第二町内会の福祉部あけぼの会」の外川なみ子さんたちでした。「あけぼの会」は、この地域で高齢者を対象にボランティア活動や、ハマロードサポーターとして道路に花や緑を植える活動を行ってきていました。外川さんたちは、こうした活動の中で、自分たちが動けば行政も応えてくれるという手ごたえを感じていました。そんなときに、メンバーの一人が、ホー

ムページで「まち普請事業」のことを知り、舞岡バス停前の整備で応募してみようと考えたのでした。

ヨコハマ市民まち普請事業は、住民が提案し取り組む身近なまちの整備を、行政や専門家が応援する制度です。2次コンテストまで通過すれば500万円を上限とする整備助成金も得られます。

平成17年（2005年）7月、「あけぼの会」のメンバーが夢を描いた「バス停前傾斜地の緑化事業」の提案は、「まち普請事業」の1次コンテストを通過しました。

町内会ぐるみで、「夢の舞う岡」の 実現に向けて

とはいえ、傾斜地を整備し緑化するという事業は、「あけぼの会」のメンバーだけの手にはあまるものです。整備後の維持・管理・運営にも住民参加が必要となります。そこで、「あけぼの会」では町内会の役員に相談し、議論を重ねた結果、町内会として提案していくことになりました。さらに、市から紹介された造園コンサルタントの菅博嗣さんや区役所の協力も得て、具体的な提案づくりに取りかかりました。月に3、4回、時には夜遅くまで喧々囂々、和気藹々の会合を重ね、平成17年（2005年）12月には、「まち普請事業」の2次コンテストに臨みました。

提案は、その内容や具体性が高く評価され、「夢の舞う岡」の整備が実現することになりました。





地域の玄関口を「夢の舞う岡」に

子どもたちがつくった絵タイルとテラス

2次コンテストを通過して、いよいよ、具体的な整備に取りかかろうとした時、造園コンサルタントの菅さんから、「子どもたちに参加してもらったらどうか」との提案がありました。地元の舞岡小学校や舞岡中学校は、町内会との日ごろのつきあいもあり、ハマロードサポーターの活動には子どもたちも参加しています。

さっそく、町内会長の相澤次郎さんが、小学校と中学校に提案し、両校とも、子どもたちの参加を快く承諾してくれました。

舞岡小学校は、全児童が、階段に埋め込む絵タイルづくりに取り組みました。「納豆タイル」と名付けたこのタイルづくりに使う納豆の空き容器は、学校が保護者に呼びかけ、各家庭から集められたものでした。舞岡中学校では、生徒会と美術部の生徒たちが、テラスの木製の柵ひとつひとつに、舞岡の自然や名所を描きました。



住民の手による整備

「夢の舞う岡」の提案は、整備助成金500万円で実現するのは難しいほど、盛りだくさんの夢が詰まったものでした。整備を施工した造園業者の岩下さんは、提案内容を最大限に実現できるように、住民たちに作業を担ってもらうことで費用を抑えることにしました。町内会でもレクリエーションや忘年会の予算を削って、「夢の舞う岡」整備に充てました。

手弁当で整備作業に参加した住民たち。しかしこの作業は、「夢の舞う岡」への愛着を深めるいい機会ともなりました。作業に参加できない高齢者も、通りがけに「がんばってね。」と声をかけてくれるようになりました。まちを良くしたいという住民の心のつながりが生まれてきました。



町内会も変わる、住民も変わる

まちの普請は、その昔は住民が自らの力をあわせて行っていたはずですが、現在は、行政や企業が整備し、住民は意見を言うだけの存在になりがちです。町内会も住民の親睦をはかる行事が主な活動となっています。舞岡第二町内会にとっても、身近なまちを普請するというのは、これまでにない取り組みとなりました。住民の意見をまとめ、行政等にも伝えていくとともに、自ら行動して地域を変えていく組織へと、「夢の舞う岡」は、町内会への住民たちの新たな期待も喚起しました。

「夢の舞う岡」を地域で育てよう

「夢の舞う岡」を地域の大事な場所として維持していくためには、花木の定期的な手入れなど人の手が必要であると同時に、費用もかかります。町内会では、さっそく活動に参加する「夢の舞う岡サポーター」募集と、運営資金とするための「夢の舞う岡基金」への募金を、各戸にチラシを配布し呼びかけました。「サポーター」と「基金」はすでに集まりつつあります。住民たちの手で生み出した「夢の舞う岡」を、今度は住民たちの手で育てようとする地域がまとまってきていることを、町内会やあけぼの会のメンバーは実感しています。

「こんなに地域と学校が身近だと感じたことはなかった」と町内会のメンバー。地域と学校の関わりも深まりつつあります。町内会の役員をはじめ大人たちは、だんだん年をとっていきます。「夢の舞う岡」に関わった子どもたちが、「これ、私が作ったんだよ」と忘れずにいてくれることで、大人になっても地域に関わり続けてもらいたい…、「夢の舞う岡」は、地域の大人が子どもたちに託した「夢」でもあるようです。



コミュニティバスの 実現をめざす 区民の集い

コミュニティバスとは

「コミュニティバス」という小型のバスが、全国各地で運行され注目されています。コミュニティバスは、狭い路地や、坂道が多くて大型バスが運行できない地域、既存のバス路線が廃止された地域などで、住民の利便性を向上させる交通手段となりつつあります。路線バスとタクシーの間に位置づけられそうな、ちょうどスクールバスのような印象です。コミュニティバスの運営主体は民間や自治体など様々ですが、多くは自治体の補助金を受けて民間が運行しているようです。

泉区のコミュニティバス

横浜市泉区下和泉住宅自治会では、駅や区役所、病院などと住宅地を結ぶバスを走らせています。その名はEバス（イージー、手軽で容易）。ボランティアグループの移送サービスからはじまったEバスは2002年4月に試運行、同年7月から、本格運行されています。

住民は、運賃ではなく、自治会館や地元商店などで会費を納め、受領した会員証で乗車します。当初3ヶ月の試運行では、会員証の売り上げだけでは採算が取れないことがわかり、自治会が住民にカンパを呼びかけました。その結果、50万円程の寄付が集まりました。現在は平日の朝と夜に17便運行し、利用者は1日約120人と安定しており、会員でまかなえています。970世帯、3000人が暮らす地区に欠かせない存在となっているEバスですが、利用者の固定化、ボランティアスタッフの高齢化、資金面のこと、行政サービスの加減や民間バス会社との調整をどう折り合いをつけるかなど課題は尽きません。運行業務は公共交通機関ができれば理想とのことですが、少しずつ課題を解決していくことで、コミュニティバスの存在意義を広めていけるのではないのでしょうか。

港北区にもコミュニティバスを

横浜には、人口密度は高いのに、交通の不便な地域がたくさんあります。東横線の菊名と大倉山、JR横浜線の新横浜を結んだ三角形の内側にあたる地域もそのひとつです。

「菊名・大倉山・新横浜循環コミュニティバスの本運行の実現をめざす市民の会準備会（コミバス市民の会）」は市民主体で、菊名～大倉山～新横浜を循環するコミュニティバスの実現をめざし、試運行を重ねてきました。

住民からは、「ベビーカーでも乗り降り可能なバスにしてほしい」「昼間のバス網を充実してほしい」「周りに気兼ねなく安心して外出したい」などの期待が寄せられています。

コミュニティバスの試運行と 本格導入に向けて

2006年12月17日（日）、コミバス市民の会を協議会に発展させるため、「コミュニティバスの実現をめざす区民の集い」が港北公会堂で行われました。これまでの経緯や今後の計画とともに、市民が主導して作りあげた京都の醍醐コミュニティバスの事例が報告されました。

これまでの経緯の説明の中では、2004年から年1回ずつ、3回行った試運行の状況が報告されました。いずれも1回につき、3、4日間の運行で1回目が110人、2回目が195人、3回目は当初の予想を上回る720人の利用がありました。輸送密度（1日1キロ当たりの平均乗客数）も1回目が5人だったのに対し、3回目は20人となり乗り切れない方が出る程、このコミュニティバスは着々と浸透しつつあります。

こうして、ルートの選定や運行ダイヤ、バス停の位置、車両仕様、運賃などに住民の意見を取り入れつつ、2007年には更に試運行を行う予定です。好評ならば、本格運行を検討します。

コミュニティがコミュニティバスをつくる。 コミュニティバスがコミュニティをつくる。

コミュニティバスの導入により、交通が便利になるだけでなく、公共交通を利用することで、環境負荷も軽減されます。人の行き来が多くなり、地域の活性化も期待されます。高齢者や障がい者、子育て世代の人たちは、車両のバリアフリー化や停留所の間隔の短さ（もしくは手をあげて乗る）によって、誰もが気兼ねなく気軽に、外出や移動ができるようになります。

試運行時の乗客アンケートでは「普段は行かないところに行くことができた。」「他の乗客と温かいふれあいが感じられて嬉しかった。バスもコミュニティであると実感。」など、コミュニティバスに対して、地域の新しい足にとどまらず、住民同士の交流の場としても、期待する声が寄せられています。コミュニティ・バスは単に人を運ぶだけでなく、コミュニティ・バスがコミュニティをつくるとも言えそうです。

コミュニティバスに対する思いを ミュージカルで伝えよう。

「コミュニティバスの実現をめざす区民の集い」が行われた港北公会堂では、同じ日にコミュニティバスをテーマとした市民主体のミュージカル「OMNIBUS！！オムニバス」も公演されました。一般公募で集まった子どもたちが中心となって横浜のバス営業所を舞台に、小さなバスが活躍する話を熱演しました。市民がミュージカルの主役となり、地域のタイムリーな話題を取り上げることで、地域の人たちの関心を喚起しています。若い世代にとっても、ミュージカルは楽しみながら地域社会の現状を知る手立てとなっています。この街でいろいろな人々が暮らし、いろいろな課題があると実感できます。

「地域のアイデンティティを育む場」として地域に根付いてきたミュージカルが続くことにより、地域まちづくりの意識は更に醸成されていくことでしょう。

報告

まちづくり活動情報 (募集案内)

コラボレーションフォーラム「みんなでコラボれ！」

今年度は、各区で行なう13の地域フォーラムと、全市民を対象とした「コラボレーションフォーラム横浜2006」が連携し、「みんなでコラボれ！」と題して開催されます。

■コラボレーションフォーラム横浜2006【参加者募集中】

- 日時：平成19年2月24日(土)～25日(日)
- 会場：横浜にぎわい座(中区野毛町3-110-1) 他
- テーマ：「協働で築く住みよい地域社会～つながる市民、つなげる行政～」
<http://www.city.yokohama.jp/me/shimin/tishin/forum2006/index.html>

■地域フォーラム一覧

- みんなが主役のまちづくり
○開催日：2月17日(土)
○問合せ：栄区区政推進課 TEL 894-6962 FAX 895-1759
http://www.city.yokohama.jp/me/sakae/fukuho/chikifuku_plan/index.html
- 都筑区地域福祉保健計画発表会
○開催日：2月17日(土)
○問合せ：都筑区福祉保健課 TEL 948-2344 FAX 948-2354
<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/hukuho/tihukukeikaku/index.html>
- 川からはじまるまちづくりシンポジウム「もっともっともっと！いたち川」
○開催日：2月24日(土)
○問合せ：栄区区政推進課 TEL 894-8161 FAX 895-2260
http://www.city.yokohama.jp/me/sakae/kusei/kawa/kawarabana/2007/itachi_36.pdf
- 磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」推進フォーラム
○開催日：3月15日(木)
○問合せ：磯子区福祉保健課 TEL 750-2442 FAX 750-2547
<http://www.city.yokohama.jp/me/isogo/jigyokik/keikaku1.html>
- 港北ふるさとサポート事業 活動報告・交流会「港北寄りあい処」
○開催日：3月17日(土)
○問合せ：港北区区政推進課 TEL 540-2230 FAX 540-2209
<http://www.city.yokohama.jp/me/kohoku/suisin/kikaku/furusapo/index.html>

参加のデザイン道具箱実践講習会【参加者募集】 (財)世田谷トラストまちづくり 主催

まちづくりセンター発刊の『参加のデザイン道具箱』シリーズをテキストにした実践講習会を開催します。まちづくりワークショップの手法や参加・協働プロジェクトの企画について、実践方式で学びます。市民活動グループ、行政マン、学生など参加のまちづくりに関心のあるみなさまの参加をお待ちしています。

- 「基礎技術編」(申込み受付中)
○日時：平成19年3月8日(木) 10:00～18:30
○定員：35名 ○費用：20,000円(テキスト代別途)
○場所：三茶しゃねなあとホール オリオン
世田谷区太子堂2-16-7 世田谷区三軒茶屋分庁舎5階
- 申込・問合せ：(財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課
・まちづくりセンター事業担当係(担当：朝比奈)
・TEL：03-6407-3313
・受付時間：月～金曜日8:30～17:15(土日祝除く)
※詳細については、次のURLをご覧ください。
<http://www.setagayatm.or.jp/index.html>

ミニヨコハマシティが生まれる【イベントのお知らせ】

特定非営利活動法人I Loveつづき 主催
横浜市こども青少年局/ハウスクエア横浜 共催
こども環境学会/ミニヨコハマシティ研究会/中川商業地区振興会他 協力

いつも、楽しみながらまちづくりをしている、NPO法人I Loveつづき。今回は、横浜市こども青少年局の委託、ハウスクエア横浜の協力を得て、未成年のまち「ミニヨコハマシティ」をオープンさせます。このイベントは4月に開催される「こども環境学会横浜大会」のプレイベントとして学会で位置づけられた事業です。また横浜市に10月に誕生したばかりのミニヨコハマシティ研究会の強力なバックアップも得ています。

- 「ミニヨコハマ市民オリエンテーション」…○日時：3月4日(日)
- 「ミニヨコハマイベント」…○日時：3月17日(土) 18日(日)

○場所：都筑区中川「ハウスクエア横浜」(市営地下鉄中川駅徒歩2分)
○費用：おとなパスポート200円、20才未満は参加費無料
●協力者募集中！(おとな)
この、ワクワクするイベントに参加して一緒にあそびながら、こどもや青少年とまちづくりを楽しみませんか？大人スタッフの年齢制限はありません。もちろんご協賛も募集中です！

たとえば…

- <<マンパワー系>>「こども・青少年と一緒に悩んだり、相談にのったりできるよ」「机を運んだり、会場設置するよ」
 - <<知識教える系>>「竹とんぼの作り方教えられるよ」「人前での話し方のコツを知ってるよ」
 - <<物品系>>「段ボールなら提供できるよ」「掃除用具を貸せるよ」
 - <<パイ役系>>「ラジオ局の中、案内できるよ」「お金の仕組みに詳しい人、紹介するよ」・・・などなど
- 他にもこどもや青少年のアイデア次第でいろんなコト・モノが必要になってきます。「私ならこんな協力ができるよ」という方はもちろん、「私でも何かできるかな」と思った方、ご連絡お待ちしております！
○問合せ
ilovetuzuki@tmtv.ne.jp までメールあるいは
I Love つづき事務局 045-590-2394 (岩室) まで

●参加者募集中！(19歳以下)

- ミニヨコハマシティは、19歳以下の選挙権のない人がつくる「まち」。横浜市民でなくてもOK！まちづくりを体験したい人、ミニヨコハマ市民(運営市民)に応募してみませんか。市長候補も募集中。
- 応募資格：19歳以下で保護者なしで、下記のイベントに参加できる人。
1. 3月4日(日) まち会議と説明会(オリエンテーション)
 2. 3月17日(土)～18日(日)のミニヨコハマシティイベント本番
- 締切：2月23日(金)
- 応募方法
1. 必要事項：住所・名前・年齢(学年)
 2. ミニヨコハマシティで何がしたいか？市長候補を希望するか？の、2点を書いて、メールかまたはFAX(045-590-2394)してください。
応募は作文、絵、写真、なんでも形態は自由です。下記に応募用紙もあります。
- 公式ページ
<http://www1.tmtv.ne.jp/~ivtuzuki/history2007/miniyoko>
○応募用紙のダウンロード
<http://www1.tmtv.ne.jp/~ivtuzuki/history2007/miniyoko/download.html>

まちづくり人!大集合!【参加者募集】

- 地域の身近なまちづくりに関わる多彩な「まちづくり人」が集い、語り合う「まちづくり交流会」が開催されます。
- 日時：3月16日(金) 午後6時～
 - 場所：ウィッチカフェ(横浜市中区太田町2-23 横浜MBC 1F)
<http://www.witchcafe-yokohama.com/index.html>
 - 主催・連絡先：NPO法人横浜プランニングネットワーク
〒231-0023 中区山下町25番地インペリアルビル201号室 横プラ事務局
Tel: 045-681-2922/3877 Fax: 045-681-2922
Email: yokopula@yahoo.co.jp
HP: <http://www.geocities.jp/yokopula/>
開催案内チラシ：
http://www.geocities.jp/yokopula/kouryukikaku0316/kouryukikaku_panf.html

「ヨコハマ市民まち普請事業」は平成17年のスタートからまもなく2年の月日が経とうとしています。これまで試行錯誤を重ねながら、市民の皆さんがより提案しやすい制度になるよう改善を図ってきました。この2年間に12の提案が整備助成提案として選考され、一期生である平成17年度に選考された7グループの整備は、すべて完成しようとしています。事務局として微力ながら整備にあたってのお手伝いをさせていただきましたが、提案グループの皆さんの熱意と行動力にはただただ圧倒されるばかりでした。読者の皆さんも機会があれば是非ご賢になって下さい。また、4月にはこれらの提案の整備成果を報告していただく場を設ける予定です。そちらの方にも是非ご参加ください。詳細につきましては後日お知らせいたします。

「協働」を辞書で引くと「同じ目的のために、協力して働くこと。」とあります。つまり目的を共有し、汗を流せようということなのでしょう。私も市民の皆さんと引き続き良い汗をかきたいと思えます。(地域整備支障課 甲賀)



●まちづくりに関する情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。情報提供のあて先：

横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
TEL: 045-671-2696 FAX: 045-663-8641
e-mail: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。メールマガジンの配信申し込みは、下記のアドレスからお願いします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>